



教職員研究論文入賞者決まる

応募総数84点 特選4点 入選11点

平成 7 年度福島県公立幼稚園・
小・中・盲・聾・養護学校研究論文
の募集に県内各地区の教職員や学校
から八十四点の応募がありました。

各教育事務所の第一次審査及び義
務教育課の第二次審査を経て、論文

の最終審査会は、去る十一月六日に、
四名の審査委員の先生方によつて行
われました。

その結果、次の四点（個人三点、
団体一点）が特選となり、十二月二
十日に、自治会館において表彰式が
行われました。

特選入賞

○ 山本 靖

（会津若松市立城西小学校）

「具体的な体験や活動」を取り入れ
た社会科の授業のあり方について
の実践的考察

— 精選の工夫と単元構成の
工夫 —

○ 斎藤 利夫

（福島市立杉妻小学校）

一人ひとりの個性を生かしながら、
豊かな身体表現力を育てる指導

○ 郡山市立郡山第一中学校

（代表 校長 吾妻幹廣）

個を生かし育む授業の創造
—— 一人ひとりのよさを生かす評価
の工夫 —

○ 鈴木 哲明
（郡山市立東芳小学校）
思いやりの心を持ち、広い視野に
立つて行動できる子どもの育成
— 國際理解教育を通して —

○ 今後の実践に生かす手立てを講
じているか。

また、十一点の論文が入選となり
ました。（別表参照）。

本年度の応募論文を見ると、新し
い学力観に立つた授業改善等の研究
とともに、今日的な教育課題を踏ま
えた幅の広い実践研究も数多く見ら
れました。

審査委員

○ 中村 嘉男（福島大学教育学部教授）

庄司他人男（福島大学教育学部教授）

○ 小林 四郎（元福島市立福島第一中 学校長）

椿 薫（元福島市立福島第四小
学校長）

— 精選の観点 —

- ⑤ 必要な資料が精選され、整えら
れているか。
- ⑥ 結論の導びき方は適切である
か。
- ⑦ 今後の実践に生かす手立てを講
じているか。

審査講評

- 新しい学力観に立つて授業改善
を積極的に進めようとする姿勢が
見られることは大変よろこばしい。
授業改善をねらった指導技術の
開発のために示唆を与えるものと
して、児童生徒の学習過程をイメ
ージして作成されたコンセプトマ
ップ（学習概念図）や多様な学習
を展開できるように努める対話学
習の導入などがあつた。
- 新しい考え方・新しい学説に積
極的に取り組む姿勢が見られた。
各人の研究の中に、教師による
一人ひとりの児童生徒の確かに
らえと思いやりが伺えた。
- 研究内容が他の教科学習活動や
教科外活動等に適応できる有用性
のある研究が目立つた。
- 研究論文に必要な資料を精選
し、論旨をそこねないようにする
必要があつた。
- 論旨が一貫しており、説得力が
あるか。

- 研究の意図が明確で、主題は適
切であるか。
- 研究の対象が明確であるか。
- 研究の計画及び内容が適切であ
るか。
- 研究論文に必要な資料を精選
し、論旨をそこねないようにする
必要があつた。
- 様々な調査・テストが行われて
いるが、解釈が独善的にならない